

主な出展リスト

- ◆ 衣裳 / 『青い鳥』 / 衣裳：レオン・バクスト / 着用：スタニスラス・イジコフスキー / 1920年代 (COS-01)
- ◆ 衣裳 / 『青い鳥』 / 再現制作：鷺尾華子 / 着用：後藤俊星 / 2024年 (2024年1月23日より展示予定)
- ◆ バレエ・リュス公式プログラム / 『シェエラザード』 / フランス：パリ・オペラ座 / 1910年 / 美術・衣裳：レオン・バクスト (PRBROF-01)
- ◆ バレエ・リュス公式プログラム / 『青い神』 / フランス：パリ・シャトレ座 / 1912年 / 美術・衣裳：レオン・バクスト (PRBROF-03)
- ◆ バレエ・リュス公式プログラム / 『牧神の午後』 / フランス：パリ・シャトレ座 / 1912年 / 美術・衣裳：レオン・バクスト (PRBROF-03)
- ◆ バレエ・リュス公式プログラム / 『眠り姫』 / イギリス：アルハンブラ劇場 / 1921年 / 美術・衣裳：レオン・バクスト (PRBROF-37)

主な参考文献

- ◆ セルゲイ・グリゴリエフ (薄井憲二監訳) / 『ディアギレフ・バレエ年代記 1909～1929』 / 平凡社 / 2014年
- ◆ 薄井憲二、ロバート・ペル (監修) / 『魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展』 / 国立新美術館 / 2014年
- ◆ 森瑠依子 / 『バレエの栄光の歴史がきらめく〈薄井憲二バレエ・コレクション〉の逸品を訪ねて その1～4』 / 『Chacott Web Magazine DANCE CUBE』 / 2016～2017年 / <https://www.chacott-jp.com/news/column/others/detail000338.html>
- ◆ セゾン美術館・一條彰子 (編) / 『ディアギレフのバレエ・リュス展 1909～1929：舞台美術の革命とパリの前衛芸術家たち』 / セゾン美術館 / 1998年
- ◆ 海野弘 (解説・監修) / 『華麗なる「バレエ・リュス」と舞台芸術の世界：ロシア・バレエとモダン・アート』 / バイインターナショナル / 2020年
- ◆ 芳賀直子 / 『バレエ・リュス：その魅力のすべて』 / 国書刊行会 / 2009年
- ◆ 芳賀直子 / 『ヴィジュアル版：バレエ・ヒストリー：バレエ誕生からバレエ・リュスまで』 / 世界文化社 / 2014年

劇場実験

「蘇るバレエ・リュス： 薄井憲二バレエ・コレクションの同時代的／創造的探究」

日時 2024年1月20日(土) 16:00開始

会場 京都芸術劇場 春秋座(京都芸術大学内)

主催：学校法人瓜生山学園 京都芸術大学 (舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点)

2023年度 劇場実験型プロジェクト 公募研究 (研究代表：関典子)

協力：兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション

入場無料 / 要予約



劇場実験 web



<https://forms.gle/9XXfMNXgD2bUhpK6>

<https://k-pac.org/openlab/11241/>

Kenji Usui Ballet Collection

Leon Bakst's Costumes

～ How We Revive the Ballets Russes ～

2024/1/16 (Tue.)～2024/3/10 (Sun.)

(休館日はwebでご確認ください)

◎ 企画・監修

関典子 (薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

舞踊家・振付家・舞踊研究家。幼少よりバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞など受賞。

アシスタント：若林絵美 (Emi Wakabayashi) 後藤俊星 (Shunsei Goto)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション 担当

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 tel: 0798-68-0223 (代表) fax: 0798-68-0212



Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二バレエ・コレクション

2024 企画展

レオン・バクストの衣裳

～ 劇場実験「蘇るバレエ・リュス」特別展 ～

2024/1/16 (Tue.)～2024/3/10 (Sun.)

2024年は、当コレクションの収集者である薄井憲二(1924-2017)の生誕100周年にあたります。この記念すべき年の初め(1月20日)に、京都芸術劇場・春秋座にて、劇場実験「蘇るバレエ・リュス：薄井憲二バレエ・コレクションの同時代的／創造的探究」を開催いたします。本展では、この劇場実験と連動する特別展として、バレエ・リュスの中でも最も重要な美術家の一人であるレオン・バクスト(1866-1924)が手掛けた衣裳に焦点をあて、その魅惑の作品の数々をご覧くださいませ。

1909年にパリで鮮烈なデビューを果たしたバレエ・リュスは、革新的なステージにより、一大センセーションを巻き起こしました。とりわけ、バクストが衣裳と舞台美術を手掛けた『シェエラザード』(1910)、『牧神の午後』(1912)などにおける官能的でエキゾチックなイメージと色彩は、パリの観客の心を鷲掴みにし、舞台芸術のみならず当時のファッション界に革命をもたらしました。バレエ・リュスは流行の発信地ともなったのです。

劇場実験では、当コレクションが所蔵する『青い鳥』の衣裳の再現制作と実演を行います。本展では、その衣裳の現物と複製を並べてご覧いただけます(複製衣裳の展示は1月23日以降を予定)。1920年代に制作された衣裳が、それこそ『眠れる森の美女(眠り姫)』のように、100年の眠りから蘇ります。企画展と劇場実験、どうぞあわせて、ご覧下さい。

Hyogo Performing Arts Center



レオン・バクスト (Leon Bakst 1866-1924)

ロシアの美術家。本名レフ・ローゼンベルク。ペテルブルクとパリで学び、画家・挿絵画家として画業を開始。1890年にアレクサンドル・ブノワの紹介で『芸術世界』に参加。このグループを通してセルゲイ・ディアギレフとも知り合う。同年、マリインスキー劇場で『眠れる森の美女』初演を鑑賞し、「あの晩、私の天職が決まったのだ」との言葉を残している。

1909年、バクストはパリで最初の『ロシア・シーズン』の舞台美術と衣裳デザインを依頼される。バレエ・リュス初期には『クレオパトラ』（1909）、『シェエラザード』（1910）、『薔薇の精』（1911）、『牧神の午後』（1912）など、エキゾチックで強烈な色彩のバレエが大評判となった。1911～1919年には美術監督に就任。一時はバレエ・リュスから離れたが、1921年には再び『眠れる森の美女（眠り姫）』で復帰し、豪華絢爛な舞台美術と衣裳をデザイン。これが、バクストのバレエ・リュスでの最後の仕事となった。

バクストが舞台美術・衣裳を担当したバレエ・リュス作品



『シェエラザード』(1910)
振付:ミハイル・フォーキン



『青い神』(1912)
振付:ミハイル・フォーキン



『牧神の午後』(1912)
振付:ワツラフ・ニジンスキー



『上機嫌なご婦人たち』(1917)
振付:レオニド・マシニン

『眠れる森の美女(眠り姫)』 (The Sleeping Princess)

3幕5場のバレエ



『眠り姫』(1921)
バレエ・リュス公式プログラム

- 【初演】マリウス・プティパによる『眠れる森の美女』、1890年1月15日(公開ドレスリハーサル)、1月16日(初演)、マリインスキー劇場(サンクトペテルブルク)
- 【バレエ・リュス初演】1921年11月2日、アルハンブラ劇場(ロンドン)
- 【舞台美術・衣裳】レオン・バクスト
- 【音楽】ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー原曲、イーゴリ・ストラヴィンスキー編曲
- 【振付】マリウス・プティパ原振付、ニコライ・セルゲイェフ復元振付、プロニスラワ・ニジンスカー一部振付
- 【台本】マリウス・プティパ、イワン・フセヴォロジスキー(シャルル・ペローの童話に基づく)

『眠り姫』(バレエ・リュス版『眠れる森の美女』) ～バクスト最後の大仕事～

1921年、ロンドンで上演された『眠り姫』は、バレエ・リュスにとって、最初で最後の全幕作品。その豪華さは英国人に驚きと賞賛をもって迎えられたが、興行的には失敗だったとも伝えられる(巨額の負債を抱え、衣裳全てを差し押さえられたとか)。

しかし、革命や戦争をくりげ抜けて生き残ったディアギレフたちが、この大作を手掛けたという事実は非常に興味深い。彼らが、失った祖国ロシア最高のバレエ作品『眠れる森の美女』に対する並たならぬ愛着を抱いていたことの証だろう。

古典バレエの代表作であり、チャイコフスキー3大バレエの一つ、『眠れる森の美女』。1890年の初演時には、ロシア皇帝一族や、後のバレエ・リュス団長となる青年ディアギレフ、そして、画家・舞台美術・衣裳家のバクストの姿もあった。バクストは、「あの晩、私の天職が決まったのだ」との言葉を残している。

ディアギレフとバクストの協働によって実現されたバレエ・リュス版『眠り姫』は、「ロシア・バレエの至宝を西欧に伝えたい」という、彼らの悲願でもあったことだろう。バクストは豪華絢爛な衣裳と装置をデザインし、これが、彼のバレエ・リュスでの最後の大仕事となった。

『青い鳥』

薄井憲二バレエ・コレクションが所蔵する数多の資料の中でも、特に貴重なのが、このバクストがデザインした『青い鳥』の衣裳。『青い鳥』は、古典バレエの名作『眠れる森の美女』の終幕で踊られる有名なパド・ドゥ。オーロラ姫と王子の婚礼を祝う式典の一部として、フロリナ王女と青い鳥によって演じられる技巧的な作品で、ガラ公演などで度々上演される人気作。

この衣裳を着用したのは、ポーランド＝イギリスのダンサー、スタニスラス・イジコフスキー。エンリコ・チェケッティに師事し、1911年ロンドン・エンバイア劇場バレエのミュージカル『ニューヨーク』で初舞台。1914年からバレエ・リュスに参加。非常に小柄だったにもかかわらず、並外れた跳躍力と超絶技巧に秀で、ワツラフ・ニジンスキーが演じた役柄を多く引き継ぎ、1921年に『眠り姫』の『青い鳥』を踊った(薄井コレクション所蔵の衣裳とは異なる)。後進の指導にも努め、1922年、シルル・ボームと共著で『古典劇場舞踊便覧』を出版。

